

曲に畫法の奥を盡す。
 マウリヨウフ 孟龍符 (南北)安丘の人。懷玉の弟。軍功を以て平昌縣子に封じ龍驤將軍を加へらる。
 マウロウ 孟陋 (晋)嘉の弟。少にして孤。布衣蔬食、蓬蒿の下に運栖し、人間の事を絶す。親族其孝を慕ふ。太將軍辟すれども起たず。澹然閑なく卒に志を降さず。三禮に長ず。論語を注す。世に行はる。
 マウロハツ 孟魯鉢 (明)工部主事。崇禎十五年冬、清兵城に臨む。城を守りて難に殉す。
 マウキセン 毛維瞻 (宋)西安の人。詩を以て鳴る。趙抃と邑を同うし、相得て山林の樂を爲す。元豊中出て、筠州に知たり。政平にして訟理まる。時に蘇轍筠州の監酒に謫せらる。相與に唱和す。鳳山入詠、山房即事十絶あり。
 マウキヨク 毛維翼 (清)壽州知州たり。同治三年苗沛霖壽州を圍む。維翼五百の練勇を以て百姓を督し堅守すること三月。城破れて之に死す。道員、追贈す。
 マウラン 毛瀟 (宋)富州の人。仕へて欽州靈山主簿と爲る。時に交寇廉欽諸州を陥れ守令通れ去る。瀟土豪を糾合し戰勝て賊を挫く。事聞す。召對して秩を改む。
 マエイキツ 麻水吉 (明)萬曆中の進士。庶吉士より御史に擢てられ湖廣按察使に終ふ。清操を以て聞ゆ。子傳。
 マキ 麻賈 (明)大同右衛の人。大同總將

諱の次子。嘉靖中、舍人より持節食事に至る。隆慶萬曆の交、兵官に累擢せらる。後病を引き歸る。特賜を承る者七。世庶を錫ふ者六。歿するに及び祭葬を予ふ。
 マキ 麻偉 (明)慶陽の人。萬曆三十五年の進士。庶吉士より兵科給事中に進む。天啓崇禎の交、太常少卿に擢てられ尋て致仕す。十六年冬李自成慶陽を陷る。偉之に死す。
 マキウチウ 麻九疇 (金)字は知幾。三歳にして字を識り、能く大字を作る徑數尺。神童と號せらる。金に仕へて太常博士と爲る。天興の乱、元兵に得られ病んで卒す。年五十。
 マキン 麻錦 (明)祿の長子。少より父に従つて戦功あり。嘉靖中、千總協守大同右衛たり。隆慶萬曆の間、本鎮副總兵より山西總兵官に擢てられ、鎮宣府に進む。
 マサン 麻産 (金)麗階の弟。兄と共に乱を起し、殺せらる。
 マシウ 麻秋 (晋)石勒の將。威名兇嗜を止むべし。
 マシツウ 麻嗣宗 (五代)後唐の元功の臣。左金吾大將軍涼國公たり。姓を李氏と賜ひ、名を建昌と改む。子藏珍。
 マシヨウオン 麻休恩 (明)錦の從子。初め都督同知宣府延綏大同總兵官たり。諸鎮を歴、勇を以て聞ゆ。後、遼東に敗れ獄に下さる。尋て釋さる。
 マシヨウクン 麻承勛 (明)錦の子。戦功

を累擢。遼東副總兵都督兼事南京後府僉事たり。
 マシヨウケイ 麻承勳 (明)錦の從子。官副總兵たり。
 マシヨウセウ 麻承詔 (明)錦の從子。初め寧夏參將たり。時拜を平ぐるの功あり。後、蒼頭に弒せらる。
 マシヨウセン 麻承宣 (明)錦の從子。洪峴副總兵官たり。
 マシヨウソウ 麻承宗 (明)錦の從子。官遼東副總兵たり。天啓の初、戦死す。
 マシリヨウ 麻士龍 (宋)元兵常州に入る。文天祥、尹玉及び士龍を遣はして之を援はしむ。殘兵五百を率ひ、勇を奮ひて元兵と大に戦ひ、遂に之に死す。五百人俱に死して一人の降る者なし。後、士龍に高州刺史を贈る。
 マタツ 麻達 (漢)論語を註す。
 マチウエイ 麻仲英 (宋)臨淄の人。祖希夢、太宗の時に工部侍郎と爲る。父は景孫。仲英七歳にして詩を能くす。退居して仕へず。傳學にして行あり。郷里推服す。凶年と雖も盜其の家に入らず。富韓二公青州を守り、書幣を致して其行義を荐む。召されて國子助教と爲る。東方の學者之を尊師す。
 マトウ 麻騰 (漢)高僧。中竺竺の人。風儀美なり。大小乘を解す。常に遊化を以て任となす。嘗て天竺附庸の小國に往きて金光明經を講す。敵國境を侵すに會す。身を忘れて豹ら往きて和勸し、遂に二國の交款を

致す。漢明帝、郎中蔡愔、博士弟子蔡放を天竺に遣す。愔等彼處に於て摩訶に遇見す。要して漢地に還る。愔嘗つて弘通を志し、疲苦を憚らず、流沙を冒渉して、洛邑に至る。明帝其の實接を加ふ。城西門外に精舍を立て、以て之に處らしむ。漢地に沙門あること此に始まる。但大法初めて傳はりて未だ歸信するものあらず。故に其深解を藉みて宣述する所なし。後洛陽に卒す。四十二歳經一巻を譯す。
 マンケイ 滿桂 (明)蒙古の人。幼より中軍に入り宣府に家す。毎に従征して斬賊多し。天啓中、郡將俞冲、擢て總兵を加衛す。屢清寇を撃退し、右都督に累進す。尋て左に改め太師を加ふ。崇禎二年十二月、清兵と戦ひ創を被り陣營に死す。少師に贈る。
 マンシヤウ 滿昌 (漢)齊詩を巨術に受く。大に梵本を翻して遠く來りて貢獻す。勅して僧伽跋羅と共に寶雲、法界體性、文殊般若經三部合せて十一卷を譯せしむ。傳譯を事とすといへども未だ梁言か善くせず、故に出す所の經文、隱實多しといふ。
 マンチヨウ 滿龍 (三國)字は伯寧。昌邑の人。魏に仕へ屢々戦功を立つ。官太尉に至る。龍鷹を治めず、家に餘財無し。田四十頃、穀五百斛、錢二十萬を賜ひ、以て清節を表はす。景侯と諡す。
 マンテウセン 滿朝薦 (明)字は震東。麻

陽の人。萬曆末進士。成寧知縣と爲り、廉能の聲あり。光宗の朝、南京尙書卿に累遷す。上疏して時政の失、閣官の專横を切諫す。疏入る魏忠賢帝を激せしめ、切責して職を讓ひ民と爲す。
 マンラウ 滿闕 (宋)自ら道遠子と號す。詩に工みに唐人の風あり。其苦吟の詩に云ふ、髮任蒼々白、詩須字々清。又貧居の詩に云ふ、長喜詩無病、不愁家更貧。盧多遜の黨に坐し罪を得て舒州福山寺中に避けて行者と爲る。詩を鐘樓に懸して云く、頑童趁曉食春睡、忘却登樓打曉鐘。孫億之れを見て曰く、此れ道遠子なりと寺僧をして之を呼ばしむる。闕已に去る。
 マンキ 滿偉 (三國)龍の子。字は公衡。格度を以て名を知らる。官南尉に至る。
 マリクジ 麻六兒 (明)仁壽の人。自ら評士と稱し、衆を率ゐて曹甯等の賊に應じ、至る所劫奪を擅にす。後、捕斬せらる。
 マランジヨ 麻溫舒 (宋)大中祥符に及第す。天禧に太子中允直賢院と爲る。

字は慈瓊。福建延平順昌縣の人。俗姓は連。年十五にして出家し、諸方に歷參し、終に百衲和尚に謁して法を嗣ぎ、臨濟の宗風を振ひ、德譽四傳す。世祖、延見して法を問ひ、特に紫衣を賜ふ。順治十六年、明覺の號を賜ふ。康熙五年十二月十三日、示寂す。世壽五十七。語錄十六卷あり、世に行はる。
 ミヤウトク 明得 (明)高僧。月亭と號す。又千松と號す。湖州烏程周氏の子。嘉興の東禪寺に居り、大に玄風を振ふ。萬曆十六年正月十七日示寂す。世壽五十八。茶毘して徑山に塔す。
 ミヤウホン 明本 (元)高僧。中峰と號す。姓は孫氏。錢塘の人。九歳にして母を喪ひ、十五にして出家す。法を天目高峰妙に嗣ぐ。佛帝其道行を聞き之を聘すれども起たず。佛慈圓照禪師の號並に金襴袈裟を賜ふ。至治三年八月十日寂す。享年六十一。普應國師と諡す。著書若干卷あり。日本永源寺寂室元光來り參じ、遂に法を得て歸る。
 ミヤウリヨウ 明龍 (明)高僧。淮南宿遷の人。姓は姚氏。北直羊山秀峰菴に居り。萬曆元年正月示寂す。

長慶三年十二月廿日寂す。年六十二。教して達國師と號す。
 △セイシ 務成子 (上古) 堯の師なり。呂氏春秋に見ゆ。
 △セイフ 務成附 (上古) 新序に子夏曰く舜、務成附に學ぶ。
 △タク 無澤 (上古) 舜の友たり。舜天下を以て之に讓る。乃ち自ら背冷の淵に投じて終身反らず。(莊子に見ゆ)
 △ホシ 無本 (唐) 賈島を見よ。
 △ムラ 無恨 (明) 高僧。別號空室。臨海の人。姓は陳氏。紫羅道に嗣ぐ。圓悟の第九世。初め明の靈岩に住し瑞岩に遷り遂に鄞の翠山に住す。享年七十八にして洪武十八年卒す。世壽十八。二會の語録、拈髻贊拈古、山莊雜錄等若干卷あり、世に行はる。

△メイエイ 明容 (明) 江夏の人。諸生。崇禎中、賊來りて城を破る。獨り其門に入らず。嘗曰く安くにか父母の邦覆て、生を偷み苟も活くる者あらんやと。家人皆非に投ず。容笑て曰く、吾今驪然として累無しと從容として門に傍し、非に赴いて死す。時人號して明井と爲す。
 △メイカウ 明鑄 (宋) 字は化基。安邱の人。進士に登る。仁宗の朝、諸方に應任して參知學士に卒ふ。文烈と號す。鑄、熾擬寡言、事に遇ひ苟もせず。世に推重せらる。

△

△メイキフ 明波 (晋) 家訓四卷を撰す。主簿と爲り、廉慎して民を愛す。歲歉す、賑給方あり。親の喪擧る能はざる者は之に贈す。後ち知縣に陞る。
 △メイキンケン 名錦華 (清) 天養の族。攝逆に信任せられ、屢官軍に抗す。咸豐四年擒へて誅せらる。弟鳳傳。
 △メイキヨウ 明恭 (明) 新水の人。崇禎中、魯より果遷して禮部侍郎教習庶吉士と爲る。尙書に進み東閣大學士を兼ね。累りに太子太保を加へ、戶部尙書文淵閣に進む。後ち清軍に降る。
 △メイギヨクチン 明玉珍 (元) 隨州の人。初め除蓋輝に従つて兵を起す。其試せらるるや、自ら龍圖王と號す。遂に皇帝と稱す。至正二十六年春病て卒す。年三十六。
 △メイゲン 明鉉 (元) 嘉興魏塘の人。工に花鳥を畫く。
 △メイゲンテイ 明元帝 (南北) 魏の太宗明元皇帝を見よ。
 △メイコウカ 明公選 (南北) 字は處約。梁の簡文帝除して尙書と爲す。曰く卿は尙書を得るを喜ばず、朝廷は卿を得るを喜ぶと。メイコクジヤウ 明克讓 (隋) 字は弘よ。僧紹の孫。山實の子。博く史書に涉り、將に万巻ならんとす。年十四にして褐を釋き、湘東王法曹參軍たり。隋に入り太子に拜す。野を進めて侯となる。
 △メイサン 明榮 (南北) 世録三卷を撰す。
 △メイサンヒン 明山實 (南北) 僧紹の子。

字は孝若。七歳にして能く玄理を旨ひ、十三、經史に通ず。累官して中書侍郎となる。初め青州所部平陸縣に臨む。歲歉なり、山實倉を啓き米を出して貧民を賑す。刺史奏するに山實の耗闕を爲すを以てす。有司追責して其宅を籍して官に入る。山實黙して自ら理せず、更に地を市ひ宅を造る。
 △メイシヨ 名初 (唐) 魯人。公侯政術十卷を撰す。
 △メイズキ 明瑞 (清) 字は筠亭。姓は宮蔡氏。滿州鎮黃旗人。乾隆より以來、數々戰て殊功あり。紫光閣に圖形し、一等誠嘉毅男公に封じ、黃帶四團龍補服を賞給す。卒に陣に殉ず。果烈と號す。高宗御製の懷舊の詩に五功臣中に列す。
 △メイセツウ 明勝 (元) 工に蘭を畫く。高景平淡、止だ之を僧會と號す可く、文房の活玩となすに足らず。
 △メイソウクワウテイ 明宗皇帝 (五代) 唐第二世。本夷狄に出づ姓はなし。幼名趙愷烈。後に太祖李克用に養はれて子と爲り名を嗣源と賜ふ。莊宗の號を滅す。嗣源功最も高し。中書令審漢馬步總督と爲り、命を受けて鄭を討ず。叛卒の爲めに推され、鄭より汴に趨き洛に入る。遂に位に即き名を重と改し。性猜忌せず物と數ふなし。登極の年已に六十を踰ゆ。毎夕宮中に於て香を焚き天を祝して曰く、某は胡人、亂に因り衆の爲めに推さる、願くは天早く聖人を生じ生民の主と爲せと。在位十年。五代の君に

於て最も長世と爲す。兵革亂息半年屢々登。民賴て以て休息す。改元するもの二、天成長興。

△メイソウクワウテイ 明宗皇帝 (元) 姓奇温温。名は和世球。武宗の長子。常に群臣に聽す。直言諱む勿れと。既察察都の地に次し、皇太子及び諸王を宴す。帝暴に崩す。壽三十。

△メイソウゲン 明崇儼 (唐) 専ら奇術を以て鳴る。高宗召見す。盛夏露を思ふ。坐頃取リ以て進め、自ら云ふ陰山に之を取ると。又瓜を贖ふ。百鎊を求め、須臾瓜を獻す。曰く之を蘇氏老人の園中にとると。老人を召問するに云く、一瓜を失ひ、百鎊を得と。メイソウセウ 明僧紹 (南北) 字は承烈。平原の人。隱居して仕へず。齊の高帝嘗て之に造る。聖遊けて見ゆ。帝賜ふに竹根の如意、帝纒の冠を以てす。子山實。

△メイテイ 明帝 (漢) 顯宗孝明皇帝を見よ。
 △メイテイ 明帝 (三國) 烈祖明皇帝を見よ。
 △メイテイ 明帝 (晋) 肅宗明皇帝を見よ。
 △メイテイ 明帝 (晋) 丕勅を見よ。
 △メイテイ 明帝 (南北) 齊の高宗明皇帝を見よ。
 △メイテイ 明帝 (南北) 宋の太宗明皇帝を見よ。
 △メイテイ 明帝 (南北) 周の世宗明皇帝を見よ。

△メイテツキ 明哲暉 (元) 對靈觀一記す。人物事實を備くと或はいふ明初の人と。(一)

作明鏡鏡 (元) 明哲暉を見よ。
 △メイテツキヤウ 明鏡鏡 (元) 明哲暉を見よ。

△メイホウデン 名鳳傳 (清) 天養の族。錦鏡の弟。楊道に親信せらる。咸豐中、兄と併し亂賊を爲す。其殘忍なること兄より下らず。賊衆を稱せられず、遂に敗軍して死す。
 △メイヨ 明預 (晋) 荆湘、刑政苛虐なり。開亨、書を以て因諫す。嗔怒り之を殺す。明預疾あり、病を擧げ諫む。嗔怒色あり。メイウエン 妙蓮 (清) 李日亮が女。林圯が妻。圯初め蕪湖の令を授けらる。既にして請せられて翰林院に忝たり。親王を慢るを以て罪死に擬す。決するに臨んで妙蓮蘭に詣り、上書して身を以て代らむと願ふ。遂に圯が罪を免し、仍て蕪湖の職に復す。又毎月米十石を給して以て妙蓮が用を賈く。

△メイケイ 妙惠 (清) 李氏。揚州の女。同里の士人盧が妻なり。盧禮閣下第し、隠れて書を西山寺中に讀み音耗を絶つ。成化の間、名を同じうする者の死するあり、京中の鄉人誤りて盧死すと傳ふ。父母之を信す。惠が貧窮を憐みて其の志を奪はむと欲す。可かす。必ず之を強ふ。江西の撫商謝啓之を聘す。惠自ら縊る。者再び、死すことを得ず。既に聘を受け、強ひられて謝し能はず。至れば節操操つて死を求む。啓犯す能はず。母の傍に置いて之を安顧す。母も亦揚州の人。惠懸棺して尼とならむとす。母伴りて

之を許す。時入啓が舟先づ發して歸る。母惠と偕に後る。舟金山寺の下を通ぐ、因て墮落す。惠壁に懸して云、一自當年折風風、至今魚雁兩茫茫、靈棺不伴積金墳、入地還從折桂郎、彭澤煙烟宿夢、瀟湘夜雨斷愁腸、新詩謾寫金山寺、高掛靈帆滿豫章。後に署して曰、揚州盧家妻李氏題すと。盧後に登第し、命を承けて江西に往く。家に至れば盧室なり。頃らくして金山に遊び其の詩を見る。徑ちに靈草に抵つて其の詩を遺船下に歌ふ。き、遂に其の謝家に在るを知り、接して公館に致し、歡會初の如し。

△メイソウ 妙聰 (明) 保安の人。右衛指揮張孟節が家婢。永樂中孟節行に在り、北寇入掠す。妻李、夫妹に謂ふ我汝と皆官門の女、輿として辱を受く可からずと。相挈へて井中に投ず。妙聰亦入り二人を見ら、俱に未だ死せず。李願む有るを以て水冷に害有るを恐れ遂に之を背に負ふ。賊退く。孟節弟仲結三人を井中に求め、索を以て嫂妹を引き出す。婢は即ち死す。

△メイモン 妙文 (元) 高僧。蔚州孫氏の子。蔚州雲泉に住す。世祖、詔して京都寶集寺に居らしむ。年八十を踰ゆ、念佛三昧を専修す。延祐六年示寂す。
 △メイエン 妙圓 (元) 僧。墨竹を工にす。結度彌爽。
 △メンク 縹胸 (周) 齊人。歌を善くす。
 △メンシ 縹思 (晋) 張方、縹思を以て腹心とす。



終

